

第 2 章



奈良県の現状

第1節 地勢と交通

(1) 地勢

日本のほぼ中央部紀伊半島の真ん中に位置し、京都府、大阪府、和歌山県、三重県と接する内陸県で、12市15町、12村によって構成されています。

県土は、南北103.4km、東西78.6kmと細長く、面積は3,691.09km²で国土面積の約1%となっています。

地形は、奈良県のほぼ中央部を流れる吉野川（紀ノ川）を境として、南北に二分されており、北と南とでは地勢が大きく異なっています。

吉野川以北には、その周辺を「大和青垣」と呼ばれる美しい山並みに囲まれた奈良盆地があり、住宅地や耕地が広がっています。

奈良盆地の西には、生駒・金剛の両山地が、北には低い奈良丘陵が続いています。また奈良盆地の東側は、やや急峻な断層崖があり、その崖上には大和高原と呼ばれるなだらかな山地が広がっています。

一方、吉野川以南は「近畿の屋根」と呼ばれる紀伊山地の中核部をなす地域であり、ほぼ全域が急峻な山岳地帯となっています。この山岳地帯を深い溪谷を彫りながら十津川、北山川が南流し太平洋に注いでいます。

(2) 交通

県内の鉄道網は、主として奈良盆地を中心に発達しており、特に私鉄が南北中心部を結んでいるとともに、東西についてはその南北中心部から隣接府県に向けて整備され、通勤・通学の重要な手段となっています。

県内の道路網は、鉄道と同様、主として奈良盆地を中心に発達しており、特に隣接府県を通じて東西をつなぐ自動車専用道が整備されるなど、物流等の流れが隣接府県と大きく関わっており、影響を強く受けています。

一方、県内の南北については、主に国道24号線を中心に整備されており、主要県道とあわせて重要なルートとなっています。

また、吉野山間部では、その地勢から、奈良盆地の南（中和医療圏）地域に向かう3つのルート（国道）が物流や生活を支えています。

第2節 人口構造

平成22年(2010年)の国勢調査によると、奈良県の人口は1,399,978人であり、前回国勢調査のあった平成17年(2005年)と比べて約2万1千人減少しています。

推計人口によると、奈良県の人口は平成11年をピークに減少傾向にあります。

年齢3区分別の割合をみると、年少人口(0歳～14歳)が187,215人(構成比13.2%)、生産年齢人口(15歳～64歳)が901,517人(構成比63.4%)、そして老年人口(65歳以上)が333,301人(構成比23.4%)となっています。

年次推移でみると、年少人口の構成比は昭和55年(1980年)の24.1%から10%以上減少しており、一方で、老年人口の構成比は昭和55年には10%未満であったのが、平成22年には約24%に達しており、急激な少子化・高齢化が進行しています。

また、将来人口の推計では、今後も人口減少が続き、平成37年(2025年)には約124万人まで減少すると見込まれており、年齢3区分別にみると、特に年少人口の構成比が10%を下回ると見込まれるのに対して、老年人口は増加し続け、約3人に1人が65歳以上になると見込まれています。

奈良県の人口推移及び将来設計 (年齢3区分別人口・構成比)

区 分		総 数 (年齢不詳含む)	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
昭和55年 (1980年)	人数(人)	1,209,365	291,486	804,308	112,753
	構成比(%)	100.0%	24.1%	66.5%	9.3%
昭和60年 (1985年)	人数(人)	1,304,866	288,515	883,787	132,109
	構成比(%)	100.0%	22.1%	67.8%	10.1%
平成2年 (1990年)	人数(人)	1,375,481	255,863	958,469	159,254
	構成比(%)	100.0%	18.6%	69.7%	11.6%
平成7年 (1995年)	人数(人)	1,430,862	232,418	999,261	198,192
	構成比(%)	100.0%	16.2%	69.8%	13.9%
平成12年 (2000年)	人数(人)	1,442,795	213,822	987,435	239,432
	構成比(%)	100.0%	14.8%	68.4%	16.6%
平成17年 (2005年)	人数(人)	1,421,310	197,136	938,702	283,528
	構成比(%)	100.0%	13.9%	66.0%	19.9%
平成22年 (2010年)	人数(人)	1,399,978	187,215	901,517	333,301
	構成比(%)	100.0%	13.2%	63.4%	23.4%
平成27年 (2015年:推計)	人数(人)	1,349,000	155,000	807,000	387,000
	構成比(%)	100.0%	11.5%	59.8%	28.7%
平成32年 (2020年:推計)	人数(人)	1,298,000	135,000	754,000	410,000
	構成比(%)	100.0%	10.4%	58.0%	31.6%
平成37年 (2025年:推計)	人数(人)	1,240,000	120,000	708,000	411,000
	構成比(%)	100.0%	9.7%	57.1%	33.2%

※1 人口のうち、総数には年齢不詳含む。

※2 平成22年以前は総務省「国勢調査」、平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口(平成19年5月推計)」による。

第3節 人口動態

(1) 出生

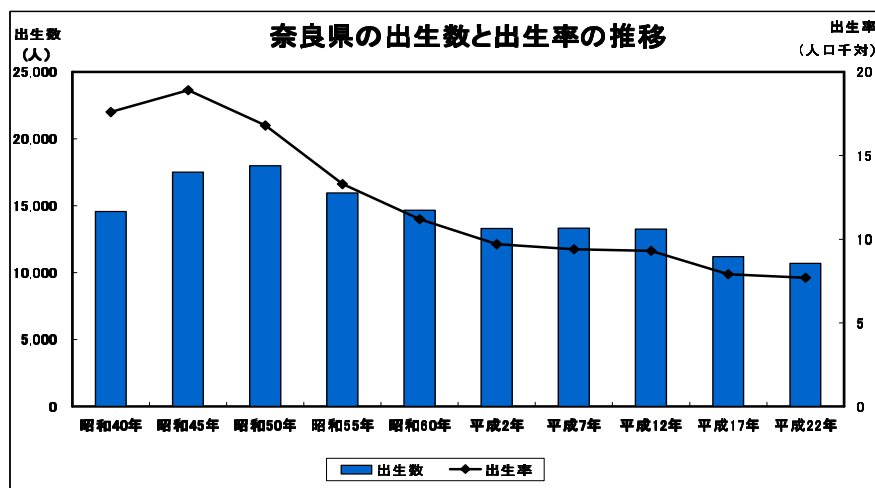
平成22年の奈良県の出生数は10,694人で、出生率（人口千対）は7.7です。
出生数は、昭和45年頃のいわゆる第二次ベビーブームを境に、以後、急激に減少しており、近年も減少傾向にあります。

また、出生率は、かつて全国平均を上回る時期もありましたが、近年は、全国平均より若干低い率で推移しています。

出生数と出生率の推移

奈良県			全国平均
年次	出生数	出生率	出生率 (人口千対)
昭和40年 (1965年)	14,571	17.6	18.6
昭和45年 (1970年)	17,516	18.9	18.8
昭和50年 (1975年)	17,983	16.8	17.1
昭和55年 (1980年)	15,949	13.3	13.6
昭和60年 (1985年)	14,659	11.2	11.9
平成2年 (1990年)	13,315	9.7	10.0
平成7年 (1995年)	13,337	9.4	9.6
平成12年 (2000年)	13,270	9.3	9.5
平成17年 (2005年)	11,184	7.9	8.4
平成22年 (2010年)	10,694	7.7	8.5

(厚生労働省「平成22年人口動態統計」)



(2) 死亡

平成 22 年の奈良県の死亡数は 13,036 人で死亡率（人口千対）は 9.4 です。

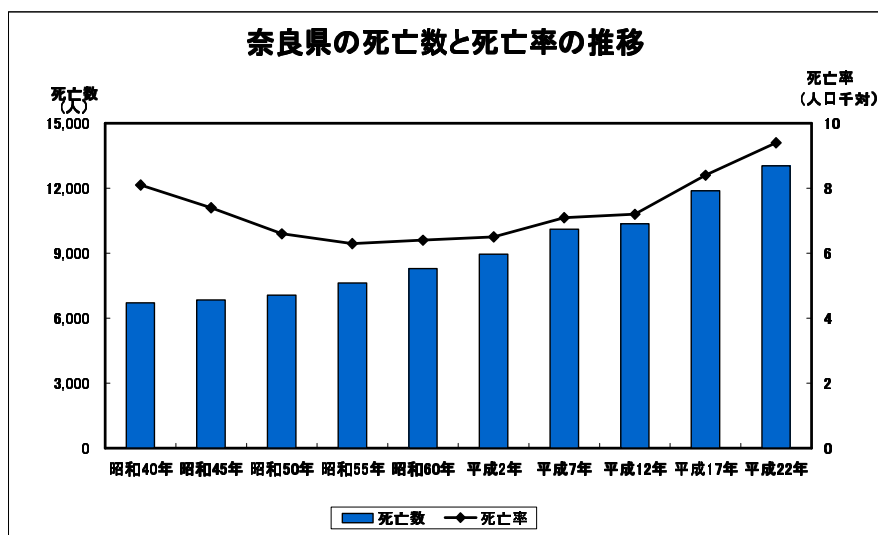
死亡数は、医療技術の進歩等により減少傾向にありましたが、高齢化社会の進行等の人口構造の変化等により、近年は上昇に転じています。

また、平成 17 年以降は、死亡率が出生率を上回っている状況にあります。

死亡数と死亡率の推移

奈良県			全国平均
年次	死亡数	死亡率	死亡率 (人口千対)
昭和40年 (1965年)	6,701	8.1	7.1
昭和45年 (1970年)	6,843	7.4	6.9
昭和50年 (1975年)	7,055	6.6	6.3
昭和55年 (1980年)	7,623	6.3	6.2
昭和60年 (1985年)	8,295	6.4	6.3
平成2年 (1990年)	8,958	6.5	6.7
平成7年 (1995年)	10,106	7.1	7.4
平成12年 (2000年)	10,362	7.2	7.7
平成17年 (2005年)	11,880	8.4	8.6
平成22年 (2010年)	13,036	9.4	9.5

(厚生労働省「平成22年人口動態統計」)



(3) 死因

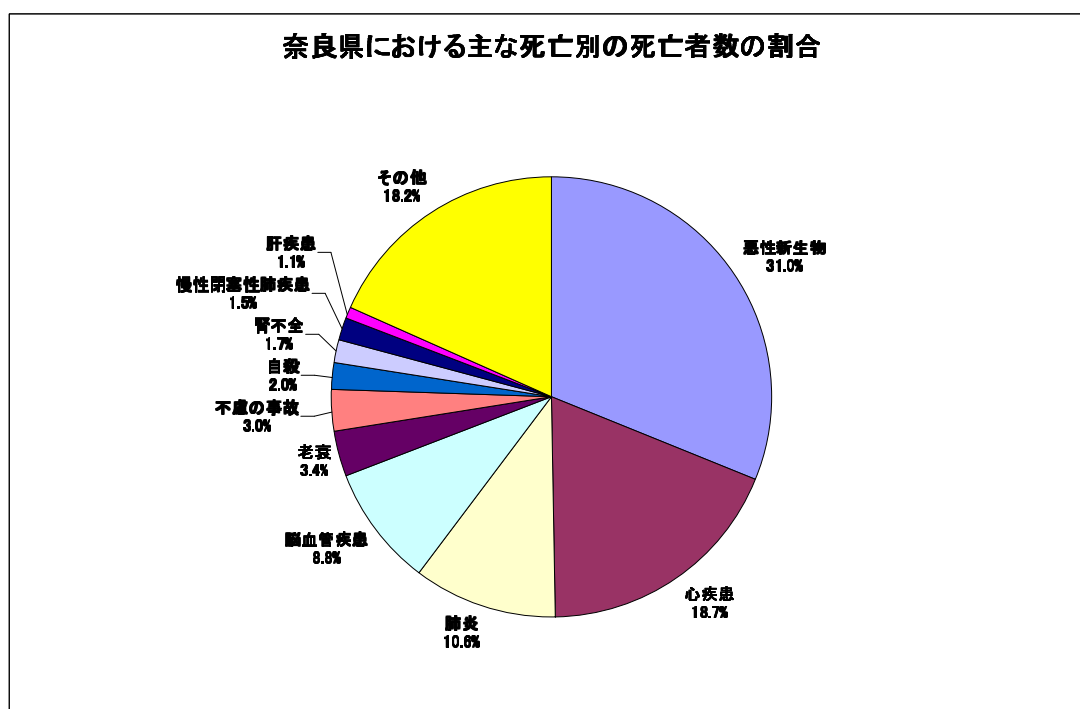
奈良県における平成 22 年の死亡者の主な死亡原因は、悪性新生物（がん）が全体の 31.0%と最も多く、次いで心疾患（急性心筋梗塞、心不全など）が 18.7%を占めています。

脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血など）は、かつては死亡原因の 1 位でしたが、医療技術の進歩等により死亡率は 30 年前に比べて半減しました。

しかし、依然として死亡原因の約 9%を占めており、悪性新生物、心疾患と合わせたいわゆる生活習慣病で死亡原因全体の約 60%となっています。

悪性新生物は、昭和 54 年に死亡原因の第 1 位になって以来、32 年連続してトップになっており、特に近年の死亡率増加は著しく、平成 22 年の死亡者数は 4,046 人、死亡率（人口 10 万対）は 292.0 となっており、30 年前と比べると、約 2.0 倍に増加しています。

悪性新生物を部位別にみると肺がんが 20.8%で最も多く、次いで胃がんが 15.3%、肝臓がんが 9.5%であり、この上位 3 位を合わせると全体の約半数を占めています。



（厚生労働省「平成 22 年人口動態統計」）

(4) 主な死因の年齢調整死亡率¹

死因ごとの死亡者数について他の都道府県や全国の平均と比較・分析するには、他府県との人口規模や年齢構成の違いに左右されない必要があることから、「年齢調整死亡率」という指標を使用します。

死亡率の多い主な原因ごとに、奈良県の年齢調整死亡率（人口 10 万対：男女計）は次のとおりです。なかでも、脳血管疾患の年齢調整死亡率は 60.0 で全国で 46 位となっています。

年齢調整死亡率の全国との比較
（人口10万対）

	全国	奈良県
	年齢調整死亡率	年齢調整死亡率
全死因	819.2	783.1
悪性新生物	274.6	277.4
心疾患	113.9	130.0
脳血管疾患	76.4	60.0
肺炎	64.9	65.5
その他	289.4	250.2

（厚生労働省「平成22年度人口動態調査特殊報告」）

¹ 年齢調整死亡率…人口規模や年齢構成が異なる地域の死亡数をより正確に比較できるよう、基準人口で補正し、それぞれの地域の死亡率がどのような特徴を持っているのか比較分析する際に広く使われている指標。なお、都道府県ごとの年齢調整死亡率は、国が調査した結果に基づき 5 年ごとに公表されています。

死亡原因別の死亡順位 年次別(奈良県)

(死亡率:人口10万対)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率
昭和40	中神経系血管損傷	178.2	悪性新生物	144.0	心 疾 患	90.2	老 衰	53.1	不慮の事故	41.6
41	〃	174.8	〃	150.8	〃	75.2	不慮の事故	44.9	老 衰	43.4
42	〃	172.8	〃	143.6	〃	87.8	老 衰	46.0	不慮の事故	35.8
43	脳血管疾患	175.8	〃	144.0	〃	94.1	〃	41.9	〃	35.6
44	〃	166.4	〃	147.9	〃	98.2	〃	39.0	〃	37.1
45	〃	169.5	〃	140.9	〃	99.4	〃	43.3	〃	36.7
46	〃	158.7	〃	137.9	〃	95.5	不慮の事故	37.2	老 衰	32.2
47	〃	159.2	〃	140.7	〃	91.1	〃	31.9	〃	29.7
48	〃	165.2	〃	138.0	〃	101.4	〃	31.5	〃	30.3
49	〃	156.0	〃	143.3	〃	109.3	肺炎及び気管支炎	33.2	〃	28.4
50	〃	149.5	〃	141.1	〃	103.2	〃	29.7	〃	28.9
51	〃	154.6	〃	137.3	〃	108.7	〃	31.9	〃	27.4
52	〃	145.2	〃	143.4	〃	9.3	老 衰	28.0	不慮の事故	25.9
53	〃	140.8	〃	140.6	〃	104.9	肺炎及び気管支炎	24.1	老 衰	22.9
54	悪性新生物	143.2	脳血管疾患	140.0	〃	98.6	老 衰	29.5	肺炎及び気管支炎	24.5
55	〃	146.7	〃	131.8	〃	110.3	〃	30.4	〃	28.5
56	〃	146.8	〃	134.7	〃	112.4	〃	29.8	〃	27.0
57	〃	148.5	〃	119.3	〃	112.9	〃	29.9	〃	26.9
58	〃	148.9	〃	126.5	〃	114.4	肺炎及び気管支炎	31.3	老 衰	29.2
59	〃	160.8	〃	121.6	〃	114.2	〃	30.5	〃	28.7
60	〃	163.4	心 疾 患	120.5	脳血管疾患	119.2	〃	37.7	〃	26.9
61	〃	158.4	〃	120.8	〃	109.7	〃	40.1	〃	27.8
62	〃	162.6	〃	120.2	〃	108.2	〃	38.2	〃	26.6
63	〃	171.1	〃	132.6	〃	104.3	〃	45.3	〃	28.0
平成元	〃	171.0	〃	131.1	〃	89.1	〃	44.4	〃	26.2
2	〃	178.2	〃	141.1	〃	92.4	〃	51.7	〃	25.1
3	〃	183.6	〃	144.3	〃	84.5	〃	59.3	不慮の事故	23.4
4	〃	187.2	〃	153.0	〃	80.8	〃	59.8	〃	27.4
5	〃	193.3	〃	152.2	〃	89.0	〃	62.2	〃	23.6
6	〃	195.5	〃	128.6	〃	89.3	〃	67.2	〃	26.4
7	〃	210.6	〃	109.4	〃	106.8	〃	62.1	〃	30.1
8	〃	208.7	〃	109.0	〃	99.6	〃	56.4	〃	32.8
9	〃	216.9	〃	112.7	〃	95.4	肺 炎	64.1	〃	28.6
10	〃	226.7	〃	119.6	〃	92.9	〃	61.8	〃	27.2
11	〃	222.3	〃	118.8	〃	97.8	〃	70.1	〃	30.1
12	〃	228.7	〃	116.9	〃	90.9	〃	61.1	〃	30.1
13	〃	234.0	〃	117.2	〃	85.1	〃	66.8	〃	29.6
14	〃	243.6	〃	120.8	〃	82.4	〃	70.6	〃	29.2
15	〃	243.6	〃	128.9	〃	88.1	〃	72.8	〃	28.0
16	〃	256.8	〃	127.1	〃	87.9	〃	75.3	〃	27.9
17	〃	266.3	〃	153.1	〃	88.1	〃	86.4	〃	27.2
18	〃	265.7	〃	152.1	肺 炎	82.8	脳血管疾患	82.6	〃	28.0
19	〃	275.3	〃	153.8	脳血管疾患	86.2	肺 炎	83.4	〃	28.6
20	〃	273.5	〃	155.8	肺 炎	94.8	脳血管疾患	90.5	〃	26.5
21	〃	269.2	〃	158.5	〃	91.2	〃	83.4	老 衰	27.7
22	〃	290.8	〃	174.8	〃	99.6	〃	82.3	〃	31.6

(厚生労働省「平成22年度人口動態統計」)

第4節 県民の受療状況

(1) 患者数

平成20年に、県内の医療施設で受診した患者数は、入院約13,500人、外来約71,800人となっています。

入院患者を性別で見ますと、男性約6,100人、女性約7,300人となっており、年齢階級別では、65歳以上が約9,200人（68.1%）を占めています。

外来患者を性別に見ると、男性約30,500人、女性約41,300人となっており、年齢階級別では65歳以上が30,600人（42.6%）を占めています。

(2) 患者の流入流出状況

県内の医療機関を受診した患者のうち、県外に住んでいる人の数（流入患者数）は、入院約1,400人（10.3%）、外来約2,400人（3.4%）となっています。

また、県内に住んでいて県外の医療機関を受診した患者数（流出患者数）は、入院約1,600人（11.8%）、外来約5,600人（7.7%）となり、県外への流出患者の方が多くなっています。

患者の流入流出状況

（単位：千人）

【流入】 奈良県所在医療機関における受診患者の状況						
	入院			外来		
	総数	県内	県外	総数	県内	県外
全国	1,392.4	1,302.0	76.2	6,865.0	6,606.0	184.3
奈良	13.5	11.9	1.4	70.5	66.2	2.4

【流出】 奈良県に住んでいる患者の医療機関受診の状況						
	入院			外来		
	総数	県内	県外	総数	県内	県外
全国	1,392.4	1,302.0	76.2	6,865.0	6,606.0	184.3
奈良	13.5	11.9	1.6	71.8	66.2	5.6

（厚生労働省「平成20年患者調査²」）

² 患者調査…3年に1回実施され、抽出された医療施設における10月の3日間のうち指定された1日の入院・外来患者及び9月1ヶ月の退院患者についての調査。

(3) 受療率³

平成 20 年の受療率（人口 10 万対）は、入院 961、外来 5,115 となっており、全国平均の受療率（入院 1,090、外来 5,376）を下回っています。

性別にみますと、男性は入院 922（全国 1,028）、外来 4,584（全国 4,688）、女性は入院 995（全国 1,150）、外来 5,595（全国 6,031）となっています。

また、年齢階級別にみますと、5 歳から 24 歳までの間は受療率が比較的低いのに対して、55 歳を超えると入院、外来ともに受療率が高くなっています。

性別、年齢階級別にみた受療率（人口 10 万対）

		総計		男性		女性	
		入院	外来	入院	外来	入院	外来
全国	総 数	1,090	5,376	1,028	4,668	1,150	6,031
奈良県	総 数	961	5,115	922	4,584	995	5,595
	0～4歳	343	5,203	398	5,505	285	4,890
	5～14	96	2,723	102	2,672	89	2,776
	15～24	139	2,140	134	1,843	141	2,406
	25～34	252	3,239	166	2,254	329	4,120
	35～44	320	3,557	379	2,823	265	4,232
	45～54	447	3,945	524	3,238	378	4,580
	55～64	883	5,530	1,103	5,076	683	5,942
	65～74	1,620	8,841	1,816	8,612	1,440	9,051
	75歳以上	4,470	10,567	4,219	10,907	4,622	10,361

（厚生労働省「平成20年患者調査」）

(4) 傷病別

入院患者は、「循環器系疾患」約 2,700 人（受療率 189）、「精神及び行動の障害」約 2,500 人（受療率 180）、「新生物」約 1,700 人（受療率 123）の順となっています。

外来患者は、「消化器系の疾患」約 16,000 人（受療率 1,194）、「循環器系の疾患」約 8,700 人（受療率 618）、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」約 6,600 人（受療率 489）の順となっています。

³ 受療率…患者調査から得られるもので、推計患者数を人口で除して人口 10 万対であらわした数。

疾病分類別にみた受療率(人口10万対)

	入院	外来	外来	
			初診	再来
総数	961	5,115	935	4,181
感染症及び寄生虫症	17	194	47	147
結核	6	2	1	1
ウイルス疾患	1	50	18	32
新生物	123	191	33	158
胃の悪性新生物	11	23	2	21
気管、気管支炎及び肺の悪性新生物	17	19	5	14
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3	17	2	15
内分泌、栄養及び代謝疾患	25	261	17	244
糖尿病	15	129	5	123
精神及び行動の障害	180	169	13	156
神経系の疾患	72	82	8	74
眼及び付属器の疾患	8	242	51	191
耳及び乳様突起の疾患	1	70	17	53
循環器系の疾患	189	618	30	588
高血圧疾患	5	415	11	403
(心疾患(高血圧性のものを除く))	50	117	11	105
虚血性心疾患	18	54	4	50
(脳血管疾患)	125	67	4	63
脳梗塞	77	44	3	41
呼吸器系の疾患	68	438	173	265
肺炎	33	9	3	7
喘息	4	87	15	72
消化器系の疾患	50	1,194	228	966
皮膚及び皮下組織の疾患	7	228	62	166
筋骨格系及び結合組織の疾患	49	449	57	391
尿路組織系の疾患	28	217	23	194
妊娠、分娩及び産じょく	14	11	2	96
周産期に発生した病態	3	1	0	1
先天奇形、奇形及び染色体異常	5	10	1	8
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	12	41	14	27
損傷、中毒及びその他の外因の影響	97	194	46	148
健康状態に影響を及ぼす要因及び保護サービスの利用	8	489	109	380

(厚生労働省「平成20年患者調査」)

(5) 平均在院日数⁴

平成 20 年患者調査によると、退院患者の平均在院日数は 31.4 日で全国平均 35.6 日と比較して少なくなっています。

傷病別にみますと、精神障害が 255.5 日、循環器系の疾患が 50.3 日神経系の疾患が 46.7 日の順となっています。

年齢階級別にみると 64 歳までは約 30 日以内ですが、65～74 歳が 38.8 日、75～84 歳が 40.7 日、85 歳以上が 64.8 日となっています。

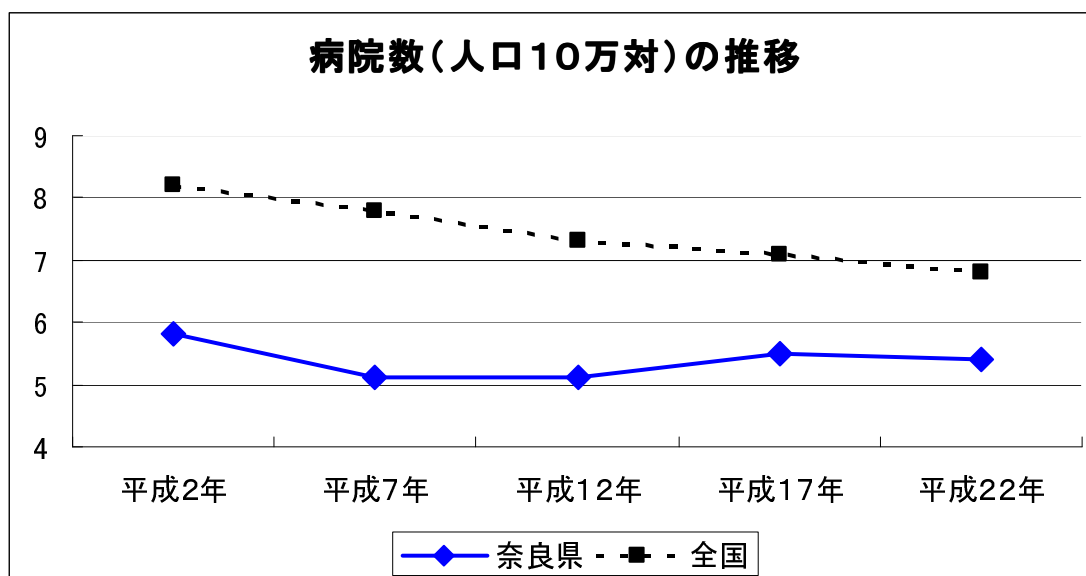
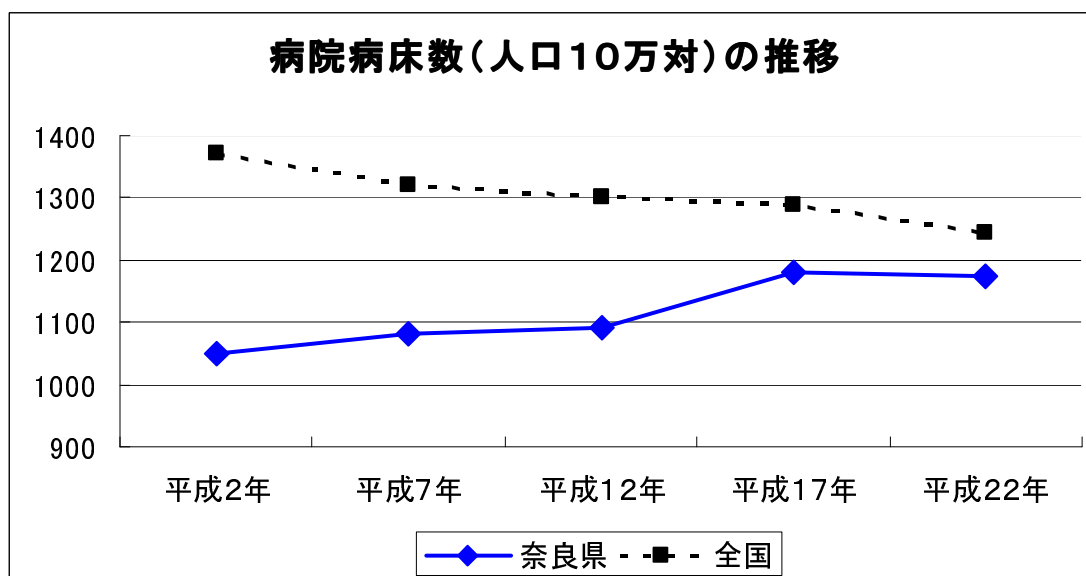
⁴ 平均在院日数…平均在院日数については、厚生労働省の公的資料として①患者調査による平均在院日数、②病院報告による平均在院日数、③概算医療費の推計平均在院日数の 3 種類が示されていますが、ここでは①の患者調査による平均在院日数を記載しています。

第5節 医療提供施設等の状況

(1) 病院

病院とは、医療を行う場所で、20人以上の患者を入院させるための施設をいいます。

平成22年10月1日現在、県内の病院数は75カ所、病床数は16,441床で、人口10万対でみると、病院数は5.4カ所、病床数は1,173.7床と、全国平均の病院数6.8カ所、病床数1,244.3床を下回っています。



(厚生労働省「平成22年医療施設調査」)

病院数、病床数を、二次医療圏ごとにみますと下表のとおり、奈良、西和、中和医療圏に多くの病院、病床が集中しており、いわゆる過疎地域を含む東和、南和医療圏で少ない状況となっています。

医療圏	病院数	病床数					
		総数	精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
総数	75	16,441	2,896	19	60	3,221	10,245
奈良	21	4,198	600	—	60	727	2,811
東和	13	2,837	86	10	—	568	2,173
西和	17	3,825	803	—	—	919	2,103
中和	18	4,546	1,143	9	—	851	2,543
南和	6	1,035	264	—	—	156	615

(厚生労働省「平成22年医療施設調査」)

病床数を人口 10 万対で種類別にみますと、平成 22 年 10 月 1 日現在下表のとおりで、一般病床については全国平均を上回っています。

病床数(病床種別)

	総数	精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
人口10万対病床数(奈良)	1173.7	206.7	1.4	4.3	230	731.4
人口10万対病床数(全国)	1244.3	270.7	1.4	6.4	260	705.6

(厚生労働省「平成22年医療施設調査」)

一般病院（71 カ所）における標榜診療科（重複計上）をみますと、内科が 69 カ所（96％）と最も多く、整形外科 58 カ所（82％）、外科 53 カ所（75％）、リハビリテーション科 52 カ所（73％）等の順となっています。

一般病院の主な診療科別の施設数(重複計上)

診療科	施設数
内科	69
整形外科	58
外科	53
リハビリテーション科	52
放射線科	45
泌尿器科	33
皮膚科	34
眼科	32
小児科	31
循環器内科	27
脳神経外科	29
麻酔科	30
消化器内科(胃腸内科)	26
神経内科	26
耳鼻いんこう科	25
呼吸器内科	22
産婦人科	17
精神科	14

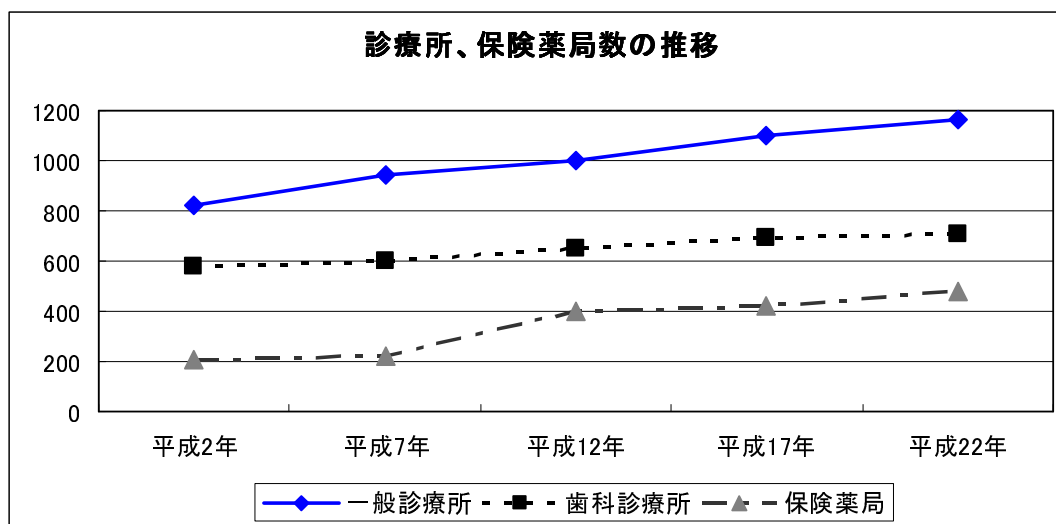
(厚生労働省「平成22年医療施設調査」)

(2) 診療所、保険薬局

診療所とは、医療を行う場所で、患者を入院させるための施設を有しないものを無床診療所、19 人以下の患者を入院させるための施設を有するものを有床診療所といいます。

平成 22 年 10 月 1 日現在の一般診療所数は 1,166 カ所、歯科診療所数は 706 カ所で、いずれも増加傾向が続いています。

保険薬局は平成 20 年 10 月末現在 463 カ所で、増加傾向が続いています。



(厚生労働省「医療施設調査」・県薬務課調査)

一般診療所を人口 10 万対で見ますと、県全体では 83.2 カ所で全国平均の 78 カ所よりも多く、二次医療圏では、東和、西和、中和医療圏において県平均を下回っています。

歯科診療所を人口 10 万対で見ると、50.4 カ所で全国平均の 53.4 カ所よりも少なく、二次医療圏では東和、西和医療圏において県平均を下回っています。

医療圏ごとの診療所数

医療圏		奈良	東和	西和	中和	南和	総数
一般診療所	総数	367	157	270	298	74	1166
	人口 10 万対	98.5	69.2	75.8	77.0	83.9	83.2
歯科診療所	総数	206	92	167	198	43	706
	人口 10 万対	55.4	41.5	46.0	51.3	52.0	50.4

(厚生労働省「平成22年医療施設調査」)